

第9回「バリ民主主義フォーラム」における
小田原政務官スピーチ

平成28年12月8日

1. 冒頭

ルトノ・マルスディ・インドネシア外務大臣閣下、
御列席の皆様、

まず最初に、この度のアチェ州における地震が貴国にもたらした被害に関し、貴国政府及び貴国国民に対し、謹んでお見舞い申し上げます。亡くなられた方々の御家族に対して深くお悔やみを申し上げますとともに、被害に遭われた方々の速やかな回復と被災地の早期復旧を心からお祈り申し上げます。

第9回を迎える「バリ民主主義フォーラム」に、日本政府を代表して参加できることを大変光栄に思います。第1回から一貫してこの場に参加し、アジアや世界の民主化という重要な課題を議論してきた日本にとって、このフォーラムが世界に開かれた場として年々拡大していることは大きな喜びです。

主催国インドネシアが、幾多の困難を乗り越えて民主主義を確立し、本フォーラムなどの取組をもって各国の民主化の進展に貢献していることを高く評価します。我が国としても、アジアを始めとする国々に開発・民主化等の支援を行っていきます。

2. 日本の取組

昨年、我が国は戦後70年を迎えました。

「二度と戦争の惨禍を繰り返してはならない。」

このことを胸に、我が国は歩みを進めてきました。以来、平和国家として、自由、民主主義、基本的人権、法の支配といった普遍的価値に重きを置き、これを不断に培ってきました。この年末に安倍総理は、オバマ大統領と共にハワイの真珠湾を訪れ、犠牲者の慰霊を行い、二度と戦争の惨禍を繰り返してはならないという、未来に向けた決意を示すと同時に、日米の和解の価値を発信する予定です。

3. 宗教、民主主義、多元主義

そのような我が国の経験に基づき、本会議のテーマである「宗教、民主主義、多元主義」について、述べさせていただきます。

(1) 宗教と多元主義

日本は、アジアにおける宗教の共存社会実現や相互理解促進の一助になればと思い、2004年よりインドネシアのイスラム寄宿塾（プサントレン）の教師の方々に日本に来ていただいています。プサントレンは、インドネシアの地域社会の中核として、教育など多岐にわたる分野で非常に大きな役割を果たしています。訪日されたプサントレンの参加者には、仏教の第一人者であり、イスラム学者でもある東大寺の森本長老との間で宗教間

対話をしていただき、参加者からは「清潔、規律、礼儀といったイスラム教の価値が日本社会において実践されていることに驚いた」との声をいただきました。

こうした取組を通じ、日本自身もイスラム教を始めとする他の宗教への理解を深め、共存社会に近づいていきたいと思います。

（２）民主主義と多元主義

政治における多元主義の代表的な論者であるダールは言いました。

「多元主義とは、市民が自分の意見を表明する権利を適切に保護し、市民が他の人々と連帯して政治生活に実際に参加していきたいと望んだときに必要な、政党、利益団体、その他の結社を作る権利を保護する制度である。」

多元主義は、まさに民主主義に不可欠な制度の一部であります。

アジア諸国はそれぞれの民主主義の道を歩んできました。日本は、そうした民主主義の実現への努力に惜しみのない支援を行います。

日本は、宗教や政治体制など様々な要素が異なる社会の統合に向けたASEANの努力を支援します。

本年は「ASEAN共同体元年」という記念すべき年であり、来年はASEAN創立50周年を迎えます。日本はこれまで一貫してASEAN共同体の構築、統合そして域内格差是正を支援してきました。その際重視しているのは、ASEAN

の「多元性」を尊重しつつ、一体性、中心性を推し進めるということです。日本は、ASEANの統合に向けた信念と熱意を後押ししたいと思います。

（３）女性の活躍

さらに、少し角度を変えて、こうした「多元主義」を支える力としての「女性の活躍」についてお話しします。

日本は、「女性が輝く社会」の実現を政権の最重要課題の一つとして掲げ、国の内外で様々な取組を進めています。そして、そのような取組を国際的に発信するため、日本は、来週、国際女性会議、WAW！（World Assembly for Women）を開催します。

本会議は2014年以来開催しているものですが、国内外から多くのリーダーを招いて開催し、女性の活躍に向けた具体的な提案を世界に向けて発信しています。特に今年は、「『行動する』WAW！」をテーマに議論を深めたいと考えており、国内外において女性の活躍促進に向けたイニシアティブを進めていきます。

4. 結語

グローバル化が進む中、世界各国で民主主義のあり方が変わりつつあります。むしろ、民主主義は、古代ギリシャから変化し続けているのかもしれませんが。そうした時代を反映した多様な民主主義を異質なものとせず、いかに適応していくかが問われ続けています。宗教につい

てもまた然りです。このフォーラムは、そうした変化を皆で共有し、敏感に感じ取るための貴重な機会であると言えます。

最後に、日本として、各国の皆様と協力して、アジアを始め世界各国の民主化を更に後押ししていくことを改めて申し上げて、私のスピーチを終えたいと思います。ご清聴ありがとうございました。

(了)